

合成樹脂のグループ化方法(案)について

合成樹脂のグループ化方法の修正について

- 区分1は、溶出が少ないポリマーを想定した区分であり、ガラス転移温度等だけではなく架橋構造の有無等を考慮し、整理した。

基ポリマーのグループ化の考え方

消費係数	樹脂の特性	
	耐油性	耐水性
小	極めて強い	極めて強い
	弱い	強い
	強い	弱い
大	—	—

注)区分の数については、特性や使用実態等を踏まえて変更の可能性あり。

合成樹脂のグループ化方法(案)

概要

基ポリマーをその特性(物理化学的性質)や使用実態を踏まえて、樹脂を複数の区分に分類し、区分に応じて添加剤の添加量等を定める。

消費係数が0.1以上の合成樹脂

Yes

No

エチレンの割合が50 wt%以上のポリマー

Yes

区分5

PE

想定樹脂

消費係数

0.25

No

プロピレンの割合が50 wt%以上のポリマー

Yes

区分6

PP

0.16

No

テレフタル酸及びエチレングリコールの合計が50 mol%以上のポリマー

Yes

区分7

PET

0.22

塩化ビニル又は塩化ビニリデンに由来する部分の割合の合計が50 wt%以上

Yes

区分4

PVC, PVDC

0.05

PVC:0.02
PVDC:<0.001

No

① ガラス転移温度、ポールプレッシャー温度等のいずれかが150°C以上の耐熱性の高いポリマー (JIS K7121, JIS C60695-10-2 等) または
② 架橋構造があり、融点が150°C以上の耐熱性の高いポリマー (JIS K7121)

Yes

区分1

エンジニアリングプラスチック、
熱硬化性樹脂等

0.05

すべて<0.001

No

吸水率が0.1%以下のポリマー
(JIS K7209)

Yes

区分2

オレフィン等

0.07

PS:0.06
その他<0.001

No

吸水率が0.1%を超えるポリマー
(JIS K7209)

Yes

区分3

ポリエステル、ポリアミド等

0.05

PA:0.02
その他<0.001

* 区分5~7の樹脂であっても、用途が限定される等、消費係数が極めて小さいポリマーは区分1~3の適用も可。

* 上記の判断基準が原則であるが、耐熱温度及び耐薬品性等により総合的に区分を判断する場合もある。